

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372001418		
法人名	有)たけのこ		
事業所名	グループホームたけのこ(85番地)		
所在地	愛知県豊橋市駒形町字退松85番地		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2372001418-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大きな事業所ではありませんが、たけのこと出会って、来て良かったと思える「幸せ」になれる笑顔の絶えない居場所づくりを目指しています。自宅と同じように日常生活を過ごせるよう心がけています。本人、家族が望み、可能であれば、人生の最期までを過ごすことができるよう応援をしています。いつでも、利用者もスタッフも笑顔になれるような環境づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ下、様々な障壁はあるが、これまで通りの「たけのこ」らしい支援を継続している。日課の散歩、家族面会、運営推進会議等は、コロナ禍前とほとんど変わらない支援である。
入居歴が長かった一人の女性利用者(Aさん)が、皆に見守られながら息を引き取られた。生前からの本人の希望と家族の希望もあって、ホームで告別式が執り行われた。
Aさんは若い頃から短歌をこよなく愛し、歌集を出したり新聞の詩歌のコーナーに投稿したりと、歌に包まれた人生を謳歌された。十数年前、「私が亡くなったら発表して」と、短歌5首を職員に託された。それが「たけのこ新聞」9月号に掲載されている。「蝸の声 切なくて 晩夏知る やぶ椿 落つれば 紅の色 深し」が閉めの歌となっており、皆の前では気丈を装っていたAさんの“寂しさ”が見える。合掌。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有する為に毎朝復唱している。今年には新しい理念「いつも心にありがとう」が誕生した。	認知症であっても、健常な人と同等の利益が享受できる社会を目指すノーマライゼーションの精神に沿い、理念に新しい一節が加わった。「いつも心にありがとう」である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で交流の機会が減っている。コロナ前は地域の小学校の運動会、保育園の交流会、お祭りに参加していた。休止中のちいきカフェは地域の方にボランティアしていただいている。	コロナ禍によって地域の行事が中止となり、ホームも地域を対象としたイベント(地域カフェ等)の開催を自粛している。定期的に利用者と職員が神社の掃除を行っており、自治会長より感謝の言葉が届いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ちいきカフェでは施設を開放し利用者と交流があり、ともに講習会、ゲーム、体操等しています。地域の方の認知症の相談も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	充分にできている。参加している家族さんの意見を活かしていきたい。2か月に1度活動状況を報告し話し合いを行う。運営推進会議で外部の方、家族さんから意見をもらっている。	コロナ下にあっても、2ヶ月に1度の運営推進会議が対面で行われている。ほぼ全員の利用者、家族、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、気功や書道の講師等々、多士済々のメンバーが集まる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ほぼできている。東三河広域連合、市役所と協力しながらケアサービスに取り組んでいる。	地域包括支援センターの職員が毎回運営推進会議に出席し、行政との橋渡しをしている。会議の中で、他のホームとの相違点や当ホームの特徴等を説明している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については無断外出の多い利用者があり、地域の方の家に入ったり、一人で出かけて戻れず、危険がある為、日中でも施錠をしてしまうことがある。	運営推進会議の中で、「身体拘束廃止を検討する委員会」の報告をしている。近所の家から果物等を持ってきてしまう利用者があり、それを制止する(外出を止める)ことの是非を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム全体で勉強会を行い虐待について再度皆で考えることができた。アザ、ケガ等見つけた場合記録や職員へ報告するようにしているが、報告が遅れてしまうことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての学習の機会があった。事務所でっており、誰が利用しているか知らないスタッフもいる。85番地で利用されている方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、説明は事務所でやっている。利用前に、見学、体験、相談を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族さんから意見を発表していただいている。毎月家族さんに、要望意見などを書いていただいている。	コロナ下ではあるが、家族面会は通常通り行われている。利用者の重度化に伴い、家族のホーム来訪が増えている。月間の「たけのこ新聞」は、文字を少なくし、いきいきとした利用者の写真を載せている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも相談できるが、言いにくいことは交換ノートに記入し返事をもらっている。	ユニットミーティングが月に1回開催され、職員の意見が聞き取られている。事前に職員が気になる事柄を提出し、その中から議題を選んでいる。法人代表との交換ノートも有効に活用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間については職員のライフスタイルに合わせていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面接の機会があり、社内研修も月一度ある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の前は介護研修に参加して同業者との交流をしていた。毎月外部から講師を呼び介護技術研修を行っている。市役所の作品展に参加し交流があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安がなくなるまで職員が1対1で付き添い、本人からの要望を傾聴し、24時間シートで情報を共有しながら安心して過ごせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分にできている。コロナ禍でも面会できるようにし、家族はいつでも相談できる機会がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具など、その方に必要なサービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんを尊重し、職員、利用者さんがお互いに助け合い信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんにとって家族の支えが一番大切と考え、コロナ禍でも面会できるようにしました。家族、職員、利用者さんが共に支えあっていることをみんなで共有しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんにとって家族の支えが一番大切と考え、コロナ禍でも面会できるようにしました。家族、職員、利用者さんが共に支えあっていることをみんなで共有しています。	家族が、利用者の昔からの友人を連れて面会に来る。自宅で暮らしていた頃からの習慣であろうか、「犬にご飯をやりたい」と言って、自分の食事を残す利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、支えあえる機会を作り、一人ひとりに合った一日の過ごし方を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関係性を大切にし、必要に応じ相談、フォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	大まかな一日の流れは決まっているが、一人ひとりに合った一日の過ごし方を目指している。体操の集まった時間にどう過ごすか利用者さんと話し合っている。	利用者の何気ない一言やしぐさからも思いを拾っている。「弟に電話したい」は「会いに来て欲しい」、食事を残すのは「自宅に帰って犬に餌をやりたい」、食べ物の名前が出れば、「買って来て欲しい」等である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力もあり十分にできている。以前得意だったこと、好きだったことが年齢とともにできなくなっている方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状を把握し、変化に応じて話し合い、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に聞けることは本人に聞いている。ミーティング等で職員間での話し合いをしている。	ユニットミーティングで利用者個々の支援の方向性を定め、6ヶ月毎に介護計画を見直している。中には、未完成の部分を残している介護計画書があった。	意向は把握しているが、介護計画に利用者や家族の意向の記入漏れがあった。介護計画の目標(短期・長期)には、取り組む期間を明示することが求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を記入し、情報の共有をし、ユニットミーティングで介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族さんの希望により、外出、外泊、ターミナルケアをしたり、その時々ニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の美容院、コンビニ、スーパー、など一緒に出掛ける。神社まで散歩して参拝をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される病院へ行くことができるが、ホームで行く場合は近くの病院でお願いしている。家族が受信される場合は必要なことを伝えるようにしている。病院へ行くことが難しくなれば往診で診てもらっている。	利用者と家族の希望を優先してかかりつけ医を決めている。家族の協力を得て、通院受診を基本としているが、訪問診療や往診の対応も可能である。看護師資格を有する職員が勤務し、安心感に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケガや体調の急変など、看護師に相談し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、治療時は事前指定書を用意。病院の相談員と話し合い、病院関係者と臨床倫理カンファレンスを行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、医療行為が介護職員ではできない為、状態が落ちてしまった時など都度話し合いをし、事前指定書を確認している。	重度化の進行に伴って事前指定書を見直し、都度家族の意向を確認している。看取り事例は多く、今年も本人と家族の希望によってホームで告別式が行われた。家族や親戚縁者の参列があり、ホームに対する感謝の言葉を得た。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時、急変の対応マニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	愛知防災、市役所の防災危機管理課から講師を招き、火災、震災の講習をしています。定期的に避難訓練を行っています。	年間2回の防災訓練を実施している。市の担当課や防災機器の専門業者から担当者呼び、講義や指導を受けている。水害想定訓練では、隣接のデイサービスの2階への垂直避難を訓練している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方との信頼関係を作ったうえで関りをしている。その方があまりしてほしくない話などないか、家族に確認している。	特別にお客様扱いはしていないが、利用者に失礼のない言葉遣いを心がけている。家族や友人が来訪して居室で談笑しているときには、場の雰囲気や和むように、さりげなく茶菓を提供している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いせず、本人の希望を聴いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に聴くようにしている。自分で決められない方は、その時の表情や様子に合わせて対応。本人の希望通りにしすぎるとね寝たままになってしまう方もいるので生活リズムは崩さないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が季節に合った衣類等を用意し、利用者さんはその中から好きなものを選んで着ている。櫛、身だしなみを整えるものは、目の届く場所に置いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナで以前に比べ調理に入ってもらうことが少なくなったが、盛り付け、準備等一緒にできることはするようにしている。	職員による3食手作りの食事を提供している。以前は先を競って手伝いをする利用者の姿があったが(以降、当番制になった)、高齢化や重度化の進行からか、落ち着いた食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	様子を見ながらユニットミーティングで意見を出し合い考えている。家族の協力で、家での習慣、オレンジやヤクルトの提供をホームでもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。口腔ケアを断る方もいて口腔衛生士を招き、講習を行いました。半年に1度訪問の歯科検診があり、口腔の状態を把握できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	都度ユニットミーティングで意見を出し合い考えている。今年はおむつフッターさんを招き、勉強する機会があった。	「生活記録表」で排泄をチェックし、トイレでの排泄を基本としている。夜間もトイレでの排泄を支援し、居室へのポータブルトイレの持ち込みはない。昼夜布パンツで過ごす利用者もおり、レベル維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、適度な運動をしていただいている。受診時に主治医に相談。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否が強い場合には無理に行っていない。女性スタッフ対応の方もみえるので女性スタッフが入浴当番の日に入っていたくことが多い。	無理強いしない入浴支援に努め、1日置き、週に3回の入浴が基本である。異性介助を好まない女性利用者には、同性介助で対応している。拒否が強く、足浴や清拭で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中ウトウトしていれば居室へ案内し休んでもらっているが、「ここでいい」という方もいるので本人の希望に合わせている。夜間眠れずに何度もみえる場合にはスタッフとしばらく一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	別ファイルに一覧になっており、いつでもだれでも確認できる。すべての薬の目的副作用を覚えるのは難しい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴やできることを考えて役割を作るようにしている。月～金までレクや教室があり、レクでは入賞すると商品があり、歩行階段を頑張ると賞状、商品がある。それが利用者さんの楽しみになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい時に合わせて散歩へ行けていないのが現状。スタッフが行ける時に付き添い散歩することが多い。	ホーム周辺への散歩はこれまでと変わりなく行われているが、企画外出の支援は減少気味である。運営推進会議でのスライド上映でも、ホーム内での活動が色濃く紹介された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人でお金を所持している方は1名いる。買い物のお金や受診費、薬代は本人に支払いしてもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話や手紙のやり取りを行う方がいないが、家族からの電話を取り次いだり、年賀状を毎年送れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前に表札を付け、それを見てお部屋に入る方もいる。リビング内に春は桜の張り紙をみんなで作った。温度等気を付けている。	広いリビングは天井が高く、開放感がある。温度や湿度に気を配り、利用者にとっての快適な生活空間を提供している。玄関に季節感のある飾りつけをすることはあるが、リビングに華美な飾りつけはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合わない方がいれば席を変っていたり職員が間に入っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていたもの、家具などをそのままホームで使用できる。家族の写真、若いころの写真など飾っている。	毎朝、当番の職員が居室の清掃を行い、整理整頓と清潔を保持している。亡くなられたご主人の遺影を置き、毎朝「お仏供(おぶく: 仏に供えるご飯)」を供える利用者がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	記録や申し送りで現状を把握し、ミーティングで必要な支援を話し合い取り組んでいる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372001418		
法人名	有)たけのこ		
事業所名	グループホームたけのこ(88番地)		
所在地	愛知県豊橋市駒形町字退松85番地		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2372001418-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大きな事業所ではありませんが、たけのこと出会って、来て良かったと思える「幸せ」になれる笑顔の絶えない居場所づくりを目指しています。自宅と同じように日常生活を過ごせるよう心がけています。本人、家族が望み、可能であれば、人生の最期までを過ごすことができるよう応援をしています。いつでも、利用者もスタッフも笑顔になれるような環境づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	充分にできている。朝に理念を唱えて共有し実践につなげている。10あるうちの1つの理念は職員からの募集で決まっている。今年は「いつも心にありがとう」に決定。その気持ちを思いながらやっていきたい。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で交流の機会が減っている。コロナ前は地域の小学校の運動会、保育園の交流会、お祭りに参加していた。休止中のちいきカフェは地域の方にボランティアしていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ちいきカフェでは施設を開放し利用者と交流があり、ともに講習会、ゲーム、体操等しています。地域の方の認知症の相談も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	充分にできている。参加している家族さんの意見を活かしていきたい。2か月に1度活動状況を報告し話し合いを行う。運営推進会議で外部の方、家族さんから意見をもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ほぼできている。東三河広域連合、市役所と協力しながらケアサービスに取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	充分にできている。職員は研修を受けている。ユニット会議で身体拘束についての話し合いを行っている。玄関は施錠していないが、付き添いが必要な利用者様の場合、外に出る時間を限らせていただくこともある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	充分にできている。虐待、身体拘束について話し合いをし、共有している。一人一人が気を付けている。虐待防止委員会を設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の話はあったが、職員の一部は学ぶ機会が持っていない。後見人が定期的に利用者に利用者さんに会いに来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、説明は事務所でやっている。利用前に、見学、体験、相談を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族さんから意見を発表していただいている。毎月家族さんに、要望意見などを書いていただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とリーダーでミーティングをしている。ユニットミーティングで出た内容についても話し合う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状で満足している。労務士さんと相談し対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会の確保をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の前は介護研修に参加して同業者との交流をしていた。毎月外部から講師を呼び介護技術研修を行っている。市役所の作品展に参加し交流があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安がなくなるまで職員が1対1で付き添い、本人からの要望を傾聴し、24時間シートで情報を共有しながら安心して過ごせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分にできている。コロナ禍でも面会できるようにし、家族はいつでも相談できる機会がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具など、その方に必要なサービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんを尊重し、職員、利用者さんがお互いに助け合い信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんにとって家族の支えが1番大切と考え、コロナ禍でも面会できるようにしました。家族、職員、利用者さんが共に支えあっていることをみんなで共有しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年齢が上がるにつれ、外出が難しくなっていること、なじみの場所が分からなくなっていること、コロナの影響等支援が難しくなっている。ご家族様の来訪は受け入れており、外出することも可能。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、支えあえる機会を作り、一人ひとりに合った一日の過ごし方を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関係性を大切にし、必要に応じ相談、フォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	大まかな一日の流れは決まっているが、一人ひとりに合った一日の過ごし方を目指している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力もあり充分にできている。以前得意だったこと、好きだったことが年齢とともにできなくなっている方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状を把握し、変化に応じて話し合い、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング等で職員間での話し合いをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のルーティーンは同じですが、毎日個別記録を記入し、情報の共有をし、ユニットミーティングで介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族さんの希望により、外出、外泊、ターミナルケアをしたり、その時々ニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為あまりできていないが、散歩時には挨拶をし、たけのこの利用者であることを知ってもらい、何かあれば支えあっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族さんの希望の病院へ受診している。病院へ行くことが難しくなれば往診で診てもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケガや体調の急変など、看護師に相談し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、治療時は事前指定書を用意。病院の相談員と話し合い、病院関係者と臨床倫理カンファレンスを行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に事前指定書を書いていただき、変化に応じて家族と終末期のあり方について話し合いを重ね、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時、急変の対応マニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	愛知防災、市役所の防災危機管理課から講師を招き、火災、震災の講習をしています。定期的に避難訓練を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々気を付けている。たまに丁寧な言葉づかいではなくなることがある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いせず、本人の希望を聴いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りはしている。食事や入浴は職員のペースになっていると思う。そのほかはやりたいこと、好きなことを支援し、自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が季節に合った衣類等を用意し、利用者さんはその中から好きなものを選んで着ている。櫛、身だしなみを整えるものは、目の届く場所に置いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる利用者さんと、できない利用者さんの差が大きいが、できることを分担してできるようお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を取りたがらない利用者さんには、好みの飲み物を提供したり、ストローを活用したり、代わりにゼリーを提供して必要な水分量を確保して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全介助は1名のみ。声掛けでご自身で磨かれる方がほとんど。週2回ポリドントをしている。歯科衛生士の講習を受けている。定期的に訪問歯科検診を行い、指導していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日中紙パンツ使用者5名。布パンツ2名。布パンツ+パッド1名。布パンツ+パッド、夜間紙パンツ1名。トイレで排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、適度な運動をしていただいている。受診時に主治医に相談。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理に入ることはあまりない。入浴が好きでない利用者もおり、入れていない人、本人と話し合っ決めて人それぞれ。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に「体がえらい」方については好きな時に休んでいる。自ら訴えられない方については昼食後に休息の時間を取っている。他の利用者さんは一人ひとり自由に休息している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでもわかるよう一覧にしてある。「何の薬？」とよく聞かれる利用者さんには説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は日々の生活の中にあり、主に皿洗い、皿拭き、洗濯物干し、たたみ。生け花をする利用者さんや、ピアノを弾く利用者さん。散歩、草取りで気分転換される方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に行きたいといった訴えはあまりなく、玄関先で息抜きをしたり散歩に出られる。ご家族の希望や散髪で外出されることはある。コロナで外出は減っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者は3名、うち1名は年齢とともに買い物に行く機会も減り、買い物担当の職員へ頼む形で使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に電話をする利用者1名。手紙は年賀状のみ書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーである。季節感はない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合わない方がいれば席を変っていたり職員が間に入っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、なじみのものを置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の気づきは記録やミーティングで話し合いをしている。		